

校歌の効果を探る ～初の全校合唱(4部合唱)への取り組み～

横地美奈

鳥取大学附属中学校 音楽科分野

E-mail: yokoji-m@tottori-u.ac.jp

YOKOJI Mina (Tottori University Junior High School): In search of the effect of singing a school song —An approach to the whole school chorus (Singing in four parts) of the school song for the first time

要旨 - 今年は歌やリコーダーの制限がなくなり、引き続き読譜の授業は続けながら、「音楽が好きになり、音楽を楽しみながら豊かな人生を送る生徒の育成」をめざし、新たな挑戦をしてみました。その中の一つが、「全校合唱への取り組み」である。曲は2年前に見つけた楽譜の「校歌(4部合唱)」とした。どの職員も斉唱しか知らず、初めての取り組みとなった。全体での練習時間はとれず、文化祭でぶっつけ本番となった。その後、アンケートを通して生徒の本校の校歌への思い、また音楽の持つ力についてどう感じているか、アンケートから検証してみた。

キーワード 校歌, 全校合唱

Abstract — Having had removal of the restriction to play recorder and sing with the end of the Corona disaster I have tried new challenges this year aiming at training up students who can enjoy their lives prosperously with music. One of the challenges was an approach to the whole school chorus. I used the score of the school song (singing in four parts) of which I found two years ago in the school. Everyone of the school staff knew only a unison singing of the school song and hence singing of the song in four parts was the first trial in the school. No time for practicing of all the classes together had been available. Thus, we were forced to performing it without any rehearsal at the school festival. I validated effects of the trial by gleaning questionaries.

Key words — School song, whole school chorus

1. はじめに

本校に赴任して4年目となった。過去3年はコロナ対策として歌えない、吹けない、マスクを外せないという大きな規制の中、「楽譜を読むことで音楽の世界は広がる。」という仮説を立て、読譜やアナリーゼの授業を進めてきた。赴任してすぐに行われた入学式では校歌斉唱は行われず、ピアノ伴奏だけがCDで流れた。本校出身の自分としては、大好きな校歌ただだけに歌詞がない伴奏だけのCDに寂しさを覚え、「歌入りのCDがあれば新入生の校歌への印象もまた全然違ったのに。」と残念に思った。翌年、「校歌(4部合唱)」と書いてあるMDをみつけた。周りの先生に聞いてみたが、誰も4部合唱の校歌の存在を知らなかった。MDラジカセがなかったので、専門業者に持って行き、

CDにおとしてもらって聴いてみた。過去をたどっていくと、私より3代前の音楽の先生が17年前にその音源を作成され、楽譜を持っていたことがわかった。さっそく楽譜セットをもらったところ、その中に当時の鳥取大学の先生が編曲してくださった自筆の4部合唱の楽譜が残っていた。この4部合唱をしたらどんなに素敵だろうと思い、いつか実現してみたいと思った。

2年目の入学式では、蘇った17年前の4部合唱のアカペラの歌声に私の伴奏を合わせてもらい、歌入りで流すことができた。この4部合唱には、周りの先生方も初めて聴いて驚いたそう。私は、コロナ対策の規制がとれたら、目の前の生徒の声で録音していざという時のために備えたいと思った。今までたくさんの校歌に触れてきた。時には、日

本人学校でも海外で校歌を響かせてきた。どの学校の校歌も、地域に根ざしたその学校にふさわしい素晴らしい校歌だと思う。「校歌が響く学校にしたい。」という校長先生にも何名か出会ってきた。「校歌がしっかり響く学校はいい学校だ。」とも聞いて来た。校歌は、その学校にとって特別なものだと思う。そして、校歌にはその学校の生徒の心を一つにする力がある。

私は、「音楽の授業」と「校歌」はつながっていると思う。教科書には載っていないが、たいていどの学校も音楽の授業の最初は「校歌を教えること」から始まるのではないかと。「なぜスタートが校歌からなのか。」「校歌はなぜ大事なのか。」を今年は改めて追求してみたいと考えた。

平成29年告示の中学校学習指導要領(文部科学省2017)には、音楽科の目標として、「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成すること」というのが示されている。さらに、「今回の改訂では、音楽科において育成を目指す資質・能力を**生活や社会の中の音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力**としている。日々の生活やその生活を営む社会の中には、様々な音や音楽、音楽文化があり、人々の営みに直接、間接に影響を与えている。したがって、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成することは、生徒がその後の人生において、音や音楽、音楽文化と主体的に関わり、心豊かな生活を営むことにつながる。」と記載してある。

私は、「校歌」も「音楽文化」の一つであると捉えている。校歌に関わるいくつかの資料を発見したことを機に、本校の校歌や日本としての校歌の起源について調べ、研究テーマとして取り組むことにした。

2. 研究の方法

楽譜を読むことを意識した授業は継続してどの学年でも続け、1年生では楽譜の読み方を小学校1年生から遡って学習する。校歌の音取りをし、意味を理解する。2年生は曲の構造やパートの役割などを学習する。今年度の3年生は1年次には

校歌、応援歌の意味調べをした。2年次には4部合唱を聴かせたら挑戦してみたいと言ったので、今年は全校で校歌の4部合唱に挑戦した(1年生は斉唱)。その後、3年生を研究対象として気持ちの変化や推移を検証する。また、3年間の授業の集大成として、音楽への関心が高まったかアンケートをとって、検証してみた。アンケート実施には石村・石村(2017)を参考にした。

2.1 「校歌を歌おう」の取り組み

〈2020年〉赴任したこの年は、外に出て歌うことを許されてやっと1年生に校歌を教えることができた。その後歌う機会はなく、卒業式のみ許可された。「校歌斉唱」に3年間の思いを込めるよう「校歌」について3年生にアンケートをし、思いをまとめて音楽科通信として配った(図1-1～図1-3)。校歌が式で歌えたのは卒業式だけだった。

〈2021年〉春休みに校歌の4部合唱のMDを発見、昔の楽譜と4部合唱の原譜を手にした(図2, 図3)。入学式では17年前の歌声と私の伴奏を合わせてもらい、校歌の4部合唱を流した。1年生は、引き続き楽譜を読む授業を年度当初に行い(詳細は本校紀要53号を参照)、校歌と応援歌の意味調べを行った。(図4)卒業式も変わらず卒業のうたはなく、3年生のみの校歌斉唱だった。

〈2022年〉

授業で校歌の4部合唱を聴かせ、3年生に楽譜を配る。しかし、歌の授業を実施することが難しかった。1年生には2年生が1年生の時に調べた歌詞を掲示して意味を説明し、楽譜を読む授業を進めた。4部合唱に取り組もうとしたが、コロナ感染予防の規制により、実施できなかった。

〈2023年〉本年度より規制がなくなったので、初めて始業式で歌ったが、歌声はあまり大きくなかった。1年生は例年通り読譜の学習をして(図5, 図6)、校歌を1年生は斉唱、2, 3年生は4部合唱に取り組んでみた。文化祭で初の全校合唱として全員で歌うことになったが、全校での練習は時間的なことやコロナ、インフルエンザの感染予防のためできなかった。各学年でほんの少し合わせ、あとは子ども達の力を信じてぶっつけ本番で歌うことにした。(図7)



図3 4部合唱の原譜



図6 教科書のリズム読み方を確認



図7 本校初の全校合唱



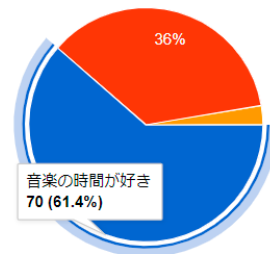
図4 校歌と応援歌の意味調べ（3年生が1年生の時）



図5 1年生の最初は小学校の内容から復習

3. 結果と考察

出入りのみの練習で声出しも指揮者、伴奏者との合わせもなく、ぶっつけ本番の全校合唱であったが、生徒は全力で臨み、とても素晴らしかった。1年生のみ斉唱だったが、きれいな4部合唱にきこえた。その後、3年生を対象に音楽の学習についてアンケートをとってみた。



- 音楽の時間が好き
- どちらかと言えば音楽の時間が好き
- どちらかと言えば音楽の時間は好きではない
- 音楽の時間は嫌い

図8 3年生対象 2022年12月実施 114/133名

「音楽の時間が好き」(61.4%), 「どちらかという好き」(36%), 「どちらかという好きではない」(2.6%)という結果になった(図8.)

次に、ずっと継続して研究してきた「楽譜を読むことが感受に影響を与えるか」について聞いてみた。

Q1:楽譜は読めるようになって役に立ちましたか?

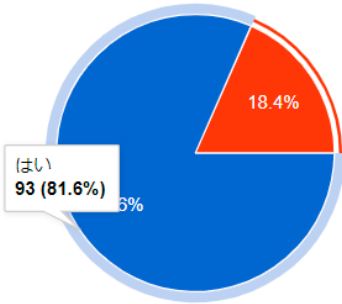


図9 3年生対象 2022年12月実施 114/133名

「はい」(81.6%) 「いいえ」(18.4%)
これは毎年行っているアンケートだが、昨年に続いて楽譜が読めない生徒が最終的に20%弱になってしまうことは大きな反省点である(図9)。

Q2:楽譜が読めるようになって具体的にどんなことに生かされたり役に立ったりしましたか?

〈アンケートより〉

〈合唱・器楽の学習で役立った〉

- ♪音程がわからなくなっても楽譜を見ればわかるようになった。
- ♪合唱で音程がわかりやすくて歌いやすくなった。
- ♪文化祭の合唱曲を歌う時にスラスラとよめて、すぐ練習に取りかかれた。
- ♪合唱の時、すごく練習がしやすかった。
- ♪リコーダーの授業がわかりやすくなった。
- ♪合唱の時にどのような感じで歌うかが自然と理解できるようになった。
- ♪歌が感覚的に歌いやすくなった気がしました。

〈趣味に役立った〉

- ♪ネットでみた楽譜がすぐ弾けるようになった。また、日常で聞く生活音を楽譜におこせるようになったことでどんな生活音でも弾くことができるようになった。
- ♪単音ならピアノを弾けるようになったことと合わせて、全然知らない曲も楽譜があれば弾いたり歌ったりしてどんな曲かわかるようになった。
- ♪楽譜をばっと思えるだけで「この曲は悲しいバラードのようだな」、「基本的に明るい曲調だな」とわかるようになりました。
- ♪YouTubeで好きな曲などの楽譜を調べてピアノで弾いてみたりできる。
- ♪ピアノを独学で練習していて、初めての曲でも弾けることが多くなった。
- ♪私が好きな歌も何調かなどを考慮できるようになりました。
- ♪家にあった楽譜を読んで電子ピアノでひいてみるできるようになった。
- ♪自分が好きなアーティストなどの音楽を演奏できるようになったこと。
- ♪自分の好きな音楽を弾きたいときに弾ける。

〈楽しくなった・視野が広がった〉

- ♪音の「高い」「低い」を意識して音楽を聴けるようになったことで、より音楽を広い視野で感じることができるようになったと思います。
- ♪もともと読める者ですが、楽譜を読めると曲が弾ける。だけでなく作った人がどう工夫して、それはなぜなのか考える材料になるので、好きな曲がどんどん好きになります。
- ♪音楽の真髄に触れた気がする。
- ♪自分の家で、楽譜を見る機会がままあるけれど、なんとなくわかるようになって、楽しい。
- ♪合唱の時に音楽記号からどうやって歌うとか、楽譜が読めることでいるんな歌に興味を持つことができた。
- ♪自分の役に立っている。
- ♪知らない曲でも楽譜を見ればメロディーなどがわかるようになった。

〈表現力の向上に役立った〉

- ♪曲が演奏でき、豊かな表現につながる。
- ♪記号の意味を知って表現の仕方がわかるようになった。
- ♪合唱の時に、書かれている記号などの情報も踏まえて、よりメッセージ性のある歌に仕上げることができたから。

〈作曲者の意図が伝わった〉

- ♪好きな曲の音楽的な工夫を理解することができた。
- ♪楽譜を見たらどの様な雰囲気曲かわかるようになった。
- ♪作詞者や作曲者の伝えたいメッセージが伝わってきました。

Q3: 今年文化祭で学年合唱を復活し、更に初の全校合唱に挑戦しました。感想を教えてください。

〈楽しかった・歌っていて気持ちよかった〉

- ♪とっても楽しかったです。附中3年間の集大成を作り上げることができたのではないかと思います。
- ♪全校で校歌を想いを込めて歌って気持ちよかった。
- ♪初めてやることで凄くワクワクしました。楽しかったです。
- ♪こんなに人数多く歌ったのは久しぶりだったので楽しかったです。
- ♪学年、学校全員が声を合わせて歌えてとても気持ち良かったし、楽しかったです。
- ♪他のクラスの人と歌う機会がなかったので嬉しかったし、楽しかったです。ホールの響く歌声が学級合唱の時と全然違ってインパクトもありました。
- ♪いつもよりも多くの人数で歌うので、より多くの音が重なって、聞いていても歌っていても心地よかったですし、楽しかったです。
- ♪より多くの人数で声を合わせることで合唱することの楽しさを学んだ。
- ♪歌うことが前より好きになった。
- ♪梨花ホール全体で全校の音がとても響いて聞こえて、歌っていてとても気持ちよかった。
- ♪やっぱり全校で歌うと迫力が違う歌っていて自分もその中の一人なんだなあと思われて歌うことの楽しさが実感できた。
- ♪周りからとても大きな声が聞こえてきて歌っていてとても楽しかった。
- ♪クラスだけで歌っただけでは感じられない感動だったり、初めてやったのもあって楽しんで歌えた。
- ♪みんなとハモる感じがとても気持ちよく、貴重な体験だったと思う。
- ♪人数が増えた分、迫力も増して、歌うことが楽しかったです。
- ♪クラスの合唱とは違う良さがあるって、迫力があり、よかったし、歌っていて楽しかった。

〈迫力〉

- ♪クラスごとより圧倒的な迫力があって、歌っている側の時でも凄かったです。
- ♪大人気で歌うことによってもすごい音圧を感じ感動した。
- ♪全校の強くて、綺麗な歌声が良かった。
- ♪迫力がすごくて、みんなで歌ったという達成感も強く良かった。
- ♪学年や学校全体で一体感があって良かったと思います。
- ♪学年全員や学校全員の音が揃うことで一体感が生まれていてとても綺麗な合唱ができたと思います。
- ♪みんなで歌うとやっぱり迫力もあり、歌っていてもみんなの熱気が伝わるくらいすごかったと思います。
- ♪全校生徒の音が合わさると迫力があり、とても感動しました。
- ♪みんな一体となって、とても綺麗になっていて、気持ちが良かった。最高だった。

〈一体感・団結・絆・つながり〉

- ♪全校生徒が一斉に歌うことがなかったので、新鮮な感じがしました。全校生徒が一つになって歌うことができたのでよかったです。
- ♪全校合唱や学年合唱はとも一体感があって良かったです。
- ♪みんなと協力する事で、絆が深まり、楽しかった。
- ♪全体との一体感が心地よかったです。合唱の良さをより感じる事ができました。
- ♪全校生徒と一体感を味わえた。
- ♪文化祭の、学校が一体感を持つという一つの役割が一層強まったと思う。
- ♪一体感が感じられて、附中に入って良かったという気持ちが感じられました。
- ♪今年から全校合唱が加わったことで、縦のつながりなどをより意識するようになりました。
- ♪みんなの気持ちが一つになった気がするくらいすごかった。
- ♪全校が一つになって歌っている一体感があって楽しかった。
- ♪一体感があってとても楽しかったです。

〈忘れられない思い出・体験〉

- ♪あんな大人気で歌うという経験はあまりできるものではないので、して良かったと思う。
- ♪学校の文化祭合唱にできて感動した。生徒全員と歌うという壮大なことができて嬉しかった。
- ♪今までの文化祭よりも記憶に残りました。。
- ♪学級合唱よりさらに多くの人の声一つにまとまった一つにまとまった学年合唱。さらにそれよりも多くの声をそれぞれも多くの声をまとめて歌った全校合唱。「400人以上で同時に巨大なホールで歌う」という貴重な体験をさせてもらったと思っている。
- ♪1クラスで歌った時よりも声量があるし、迫力があって綺麗でした。全校合唱は今まで四部合唱はCDで聞いたことくらいしかなかったから実際にみんなで歌うことができてよかったです。最後にいい経験ができてよかったです。
- ♪全校合唱初めてやったが学年合唱より大きく良い歌ができていてよかったですと思った。
- ♪たくさんの人で歌っているのにあんなにまとまっていたのに感動した。
- ♪人数が多いってすごいなあと。少人数だとできない音楽の幅広さを感じた。

- ♪人数が多いと、やはり全然歌う時も見る時も感覚が感覚が違いました。人数が多いと、まるでみんなが一つの大きな生き物になったようで何とというか震えました。
- ♪初めてで不安や緊張がたかさんあったけど、終わってからビデオを見てすごく感動して学年合唱や全校合唱をできる機会を与えてもらえて本当に良かったと思います。
- ♪初のことが多くて不安だったが自信を持って歌うことができたし思い出にも残った。
- ♪初めてで新鮮な感じもあってすごく楽しかったし思い出に残る。

〈その他〉

- ♪ぶっつけ本番だったけどよかったです。
- ♪最高でした。
- ♪学年合唱では先輩に先輩としての姿を見せることができたと思います。附中の伝統を先輩から後輩に伝えるということを実感できました。全校合唱では附属中学生全員で作ると言うという実感が湧いてよかったです。
- ♪どうなるか不安だったけど、思った以上に声量もよく鳥肌がたった。短い時間でも思い出に残る良い合唱だったと思うのでこれからも続いて欲しいと思った。
- ♪全校合唱も学年合唱も自分も歌っているのに全員の声に感動しました。
- ♪コロナやインフルの中だったけどみんなと歌うことが出来てよかったです。
- ♪歌が上手くなった気がした。
- ♪1、2年生の時より多くの人数で合唱をしたので、去年よりも歌い終わった時の達成感が大きかった。
- ♪最高学年という実感が湧いた。大きなホールで大勢で歌うことは歌うことは気持ち良かったし、歌っていてすごく楽しかったように思う。附属中学校の一体感、また、その一員だということが実感できる。貴重な機会だった。これからも続けていってほしいと思う。
- ♪1回目の練習から、学年合唱の迫力を感じました。練習を重ね、音が揃うようになってからはハーモニーを作るのが楽しくて、よりより熱心に歌いました。本番で拍手が止まらなかった時、今までの練習が報われたと感じて嬉しかったです。全校合唱も、迫力と厚みのあるものにできてよかったです。
- ♪全校の力強さが知れていい経験だった。
- ♪練習期間、回数ともになかったけどみんなが一つになって歌えたと思う
- ♪コロナで今まで制限されていた行事ばかりだったが、初めてのことに多く挑戦できて、コロナ禍以前以上の文化祭になったと思う。
- ♪他クラスの人たちと一つの歌を歌うとこんなにすごい合唱になるんだと思った。歌い終わっても鳥肌がすごかった。
- ♪後世まで語り継がれるであろう合唱でした。

- ♪希望を空高くに仰いでる感じで未来が明るくなる感じがするから。

「鳥取大学附属中学 ここにこそぞりて我らあり」

- ♪迫力があった、初めて聞いた時に感動したから。
- ♪私たちの校歌なんだと思えるから。
- ♪一番盛り上がるころだから。
- ♪校歌に学校名が出てくるので誇らしく思える。
- ♪鳥取大学附属中学がここにあるぞっていうインパクトがあると思ったから。
- ♪The 堂々という感じがして、附中生姿が目に浮かぶようだから。
- ♪Code. 混声四部の厚みや面白さが感じられる。
- ♪自分たちはここにいてと自覚しているようでかっこいい。
- ♪自信を持って私達は附中生ですと言っている感じがしてかっこいいから。
- ♪歌詞が附中生としての誇りを持って感じる良い校歌だから。
- ♪附中生を誇りに思う気持ちがよく現れている。
- ♪みんな一つたと言う気持ちになるから。
- ♪私たちは附中生なんだと誇りみたいなのを感じるから。
- ♪堂々たる附中生姿が表現されていて、いいと思うから。
- ♪アップテンポなところ。
- ♪堂々と附中生として名乗ってる感じが好き。
- ♪最後の『鳥取大学附属中学』と校名を言うのが新鮮で面白いから。
- ♪この部分が甲子園出場校みたいだから
- ♪かっこいいから。
- ♪最後の最後で印象に残りやすいし、一番盛り上がるから。
- ♪みんながいてこそ附属中学校って感じがするから。
- ♪音の移り変わりが好き。自分は附中に入っただんなあと、附中で頑張っているんだなと感じる。
- ♪生徒みんながいてこそ附属中学校と言っている気がして自分たちに誇りが持てるから好きです。
- ♪一番元気で明るくて盛り上がっているから。

その他

- ♪「花咲きみのるの自然のいのち 皆健やかに今日を明日へ」です。この部分は悩みが多いであろう附中生みんなを明るく先導しているように感じています。
- ♪「新たに学ぶ喜び満ちて」私もそのように新しいことを知ることで楽しいと思えたから。
- ♪「久松山の緑明るく」「絶えず進む」鳥取の名所と学校へ向かう明るくて力強い雰囲気を感じられるからです。
- ♪「鳥取大学附属中学 道は尚徳 附属中学校のすく長い伝統を今に受け継いでいるように感じたから」
- ♪「風ははるかに世界にかよう」「川は歴史に輝く波よ」風景がイメージできるから。
- ♪「川は歴史に輝く波よ」「風は運に世界に通う」4部合唱の追いかけっこところに魅了されたから
- ♪「新たに学ぶ喜び満ちて」や「世界に通う」などの歌詞があり、これらにつながっていくような歌詞だから。
- ♪「花咲きみのる、自然のいのち、皆健やかに今日を明日へ」の希望を表している雰囲気が好き。
- ♪「くもたかし かげひろし」語感が似ていて面白いから。大きな情景を歌っているところが個人的に好きだから
- ♪久松山、砂丘などの鳥取ならではの魅力がある歌詞が好きです。

Q4:校歌の好きな部分と理由を書いてください。

「久松山の緑明るく」

- ♪自然の壮大な感じがしていいなと思ったから。
- ♪明るく木々が生い茂っている久松山が目に見えるような感じがするから。
- ♪鳥取の自然を感じられるから。

「川は歴史に輝く波よ」

- ♪時は川の流れるように移り変わっていくものだが、その中でも附属中学校が築いてきた確固とした歴史があるというところが読み取れるから。
- ♪縁を受け継がれる伝統を感じることができるから。
- ♪附属中の歴史を川に喩えている好き。
- ♪水が太陽に反射して輝いている感じが良いから。
- ♪附中の伝統と自然が融合していい感じだと思うから。

「新たに学ぶ喜び満ちて」

- ♪跳ねるようなリズムで歌っていて楽しい。
- ♪自分が入学するときに感じた気持ちと一緒に同感できるから。
- ♪自ら学ぼうとする附中生らしさが表れていると思ったから。
- ♪淡利と少しづつ力強くなるメロディが好きならえこの歌詞が不慮生の姿を表していると思ったから。
- ♪この部分が、附中生の進んで学ぶ姿を表しているからです。
- ♪リズムが好きだし、四部合唱の時にすく迫力があったから。

「等しく励み絶えず進む」

- ♪文化祭でバスを歌って好きになったから。

「道は尚徳 影広し」

- ♪一番綺麗だと感じるから。

「砂丘の上に海を臨めば 風ははるかに世界に通う」

- ♪砂丘の丘からの壮大な景色が想像できて綺麗な景色が目に見えようから。
- ♪「世界に通う」という歌詞から、大きく羽ばたき、活躍する感じがするから。
- ♪雄大な景色が思い浮かぶから。

「花咲き実る 自然の命」

- ♪美しい情景が目に見えようから。
- ♪リズムの感じが好きだから。

「みな健やかに今日を明日へ」

- ♪附属の日々を表しているから。
- ♪「仰ぐ希望の雲高し」
- ♪希望に向かって突き進んでいる感じがするから。

Q5:音楽科の学習を通して、どのような力が身に付けられると思いますか。これまでの学習を思い出して書いてください。

知識・技能

- ♪みんなと合唱をしたり、リコーダーをしたり、音楽に関する知識を得られたと思う。
- ♪楽譜を読む力と合唱での音の取り方、リコーダーの吹き方、音楽の偉人の事。
- ♪鑑賞するときの心の持ち方や合唱など歌を歌うときのコツ。
- ♪楽譜が読めるようになり、楽器ができるようになる。
- ♪音感などを使用することによって曲の理解を深められる。
- ♪リズム感、タイミング、曲の良さがわかる。
- ♪音感や身の回りにある音楽について考える力

豊かな感性

- ♪感受性が豊かになる。
- ♪音感と音楽を聴く感性が育てられると思う。
- ♪音楽の時間を通して感性を豊かにできると思います。同じ曲でも違う感じ方をする人もいるし、さまざまな印象の曲に触れることができるからです。
- ♪音楽にふれ、曲の背景やその曲の美しさを理解できるようになればより豊かな心を持つことができると思った。
- ♪音楽や音が人の感情をどのような影響を及ぼすか分かるようになる。
- ♪日常のちょっとした音楽にも目を向けることができ感性が豊かになると思う。
- ♪感受性が豊かになり、日常を楽しめる力や表現力。
- ♪同じ音楽でも感じ方は人や時間によっていろいろなので感受性が豊かになると思った。
- ♪自分の感性が鍛えられて感動できるようになる。

音楽を楽しむ

- ♪音楽を楽しむ力をつけられると思う。
- ♪鑑賞会などで音楽をより楽しめる。
- ♪音楽を全力で楽しむ力
- ♪全体的に音楽に関心が持てると思うし、一緒に楽しめる。
- ♪音楽を一人でもみんなでも楽しめる力。
- ♪どんな音楽にも親しむ力。色々なジャンルの色々な楽器の演奏を聴いたり自分が演奏したりすることでどんなものでも楽しむことができるようになると思う。

協力・コミュニケーション力

- ♪ 仲間と一つのものを作り上げる楽しさや、新しい感動を自ら発見できる力。
- ♪ 合奏や合唱など、みんなで一緒に何かすることが多いし、お互いのタイミングを感じながら演奏する必要があるから、音楽は協調性やコミュニケーション能力UPにつながると思う。
- ♪ 他の人とコミュニケーション能力。
- ♪ 歌うとか楽器ができるようになるとかはもちろんだけど、練習や授業の中で人と話し合っ意見を出し合うということができるようになると思う。
- ♪ 合唱でみんなと協力して完成させる素晴らしさを知ることができた。
- ♪ 協調生や一体感が学べる。
- ♪ 他の人と協力したり、一緒に音楽を楽しんだりする力。
- ♪ 自分を持ちつつみんなと調和する力だと思う。合唱では自分もしっかり歌うけど、みんなと調和することも大切だから。

人とつながる力

- ♪ 音楽で心がつながる力
- ♪ 人と繋がり深められる力。音楽は言葉と違って全人類が感じることでできるもの。音楽から感じる思いや、自分の好きなジャンルなどを話すことによって人と人のつながりが深まっていくと思う。
- ♪ 音楽を楽しんで、友達と高めあう力。
- ♪ 他の国の曲や特徴を知ることによって外国の人と交流できる力
- ♪ 言葉が通じなくても他の国とも音楽では通じ合えること知り、私も他の国の文化や歴史などを音楽を通して学ぶことができたので、音楽で違う文化を学びいろんな人を繋ぐことができる力が身につけられると思った。

表現

- ♪ 思っていることを表現する力。
- ♪ 表現を豊かにする力。
- ♪ 技能的なもの、普段とは違った表現の仕方を身につけられると思います。
- ♪ 感じたことを自分の言葉で言う力だと思います。鑑賞を通して、その力が身につきました。

読み取る力・想像力

- ♪ 豊かな想像力が身につく。
- ♪ 音楽の中にある作曲者の気持ちを理解する力。
- ♪ どんな曲にも作詞者、作曲者の思いがあると面白い、探しながら聞くことが出来るようになった。
- ♪ 歌詞から背景を想像したり歌に思いを込めたりする力。
- ♪ 音楽を聴いてその曲に込められている思いなどを読み取る力。
- ♪ 音楽で表したい気持ちや思いがわかるようになると思う。
- ♪ 歌詞やメロディーから作者のメッセージを読み取る力
- ♪ 音楽からパワーを得る力が増すと思います。幼稚かもしれませんが、音楽を読みとる力よりたくさんメッセージがその曲から得られると思います。
- ♪ 作品の特徴などから込められた想いを考える力。
- ♪ 歌詞とかリズムから作詞者、作曲者の想いとかを考える力が身についた。曲を聴くのがもっと好きになった。

生涯の趣味・支え・癒やし

- ♪ 芸術に心から親しむ精神が育まれ、様々な音楽で心安らぐことができる。
- ♪ もっと音楽を身近にできる手段だと思っています。私は音楽が大好きなのでもっと勉強したいです。
- ♪ 自分自身の癒ししたり、誰かにとって心地よいものを作ったり、言葉の代わりとして表現し自分の気持ちを伝えたりする。

その他

- ♪ 広い視野で物事を見つめること。様々な時代、作曲家、系統の音楽にふれることはそれだけたくさん人の考えや夢に触れることになると思うから。
- ♪ 心の柔軟さ
- ♪ 音楽でみんなを楽しませ、自分の感情をコントロールできるようになった。
- ♪ 音楽をいろんな面から見る力。
- ♪ 日本や世界の音楽文化を知ることができさまざまな分野に興味を持ち、積極的に知ろうとする力
- ♪ 一般教養や、音楽を愛する力が育まれると思う。
- ♪ 音楽へのリスペクトと美的センス
- ♪ 普段聴く音楽などでもただ聞いただけでなくより深いところまで知ろうと思えること。
- ♪ 音で人を感動させられる力。
- ♪ 歴史的背景なども関連していて多種多様な力が身につけられる。

昨年までの研究の流れもあり、アンケートの内容は多岐に渡った。「学年合唱・全校合唱」は、今までコロナ対策で規制された分のパワーが一気に噴き出したかのようなパワーのある合唱で、感動して涙を流す保護者の方もいた。アンケートからも「楽しかった。」「感動した。」「心がひとつになるのを感じた。」という、生徒の満足感と喜びが溢れ出ている感想ばかりだった。しかし、私のアンケートのとり方が悪くて、「校歌を歌ったことによって何が変化したか。」と内容については、「合唱自体がよくなったのか。」「校歌という選曲がよくなったのか」それとも「4部合唱はよくなったのか」という部分があやふやになってしまった。校歌の効果としては、生徒の感想から読む限りは、「一体感を感じた」「附中生としての誇りを強くした」という部分かなと感じている。

「何故初の全校合唱曲が校歌なのか。」

身近であること、思いっきり歌ってほしかったこと、4部合唱の楽譜を見つけたこと、また歌えなくなる日のために録音を残しておきたかったこと、それが全校生徒の声であってほしかったこと、など様々な理由がある。でも、どうして自分がここまで校歌にこだわるのか、校歌を大切にしているのかははっきりしなかったため、校歌の歴史と影響について調べてみた。歴史について調べていくうちに、なぜ校歌なのか答えが心の中に浮き上がってきた。

簡潔に言うと、校歌は「アイデンティティ・ソング」である。「校歌を『うたう』という行為は、自分がどこの地域の、どこの学校に通っている・いたのか、自分がどういう存在であるのかを示すことにつながる。期待される児童像・生徒像・あるいは将来像を歌詞にうたい込んだ校歌をうたうことは、将来への期待を含めた生き方の意思決定を促すことになる。さらに全校児童・全校生徒、地域社会の人々で一斉に同じ校歌をうたうことは、社会的なつながりを自覚させる。」（「校歌の誕生」須田珠生著 より一部抜粋）

「日本を国民国家として出発させるにあたって、そこに属する国民のアイデンティティを作り出すことが最も重要な課題だったということです。そしてまさにそのために音楽が必要とされたのです。（中略）とりわけ『国民』が共有できる『国民音楽』を作り上げ、それを皆でうたうことによって帰属意識や連帯意識を高めてゆくことが、近代的国民国家を作り上げてゆく上で大きな役割を果たしました。（中略）明治期に作られた初期の校歌には、いろいろな意味で唱歌との強いつながりが保たれていました。それは校歌が単なる学校の歌であるという

以上に、国家体制の中で位置づけられていたことを意味しています。社会のあり方が変わっていく中で、校歌というものが衰退するどころか、微妙にその位置を変えつつ、相変わらず大きな存在感を保ち続けているということです。(中略)その意味では、校歌はそれだけ奥行きをもった、日本が誇るべき一つの「文化」になりえていてと言ってよいかもしれません。」「(歌う国民」渡辺裕著 より一部抜粋)

この2冊の書籍を読んでいくことで、自分は、校歌を全員で歌うことによって、学校の生徒の一員であり、1人ではなく仲間がいること、学校と自分に誇りを持って生活してほしい、という願いをこの全校合唱に込めたのだということが改めてわかった。また、この楽譜を手にしたことで、昭和34年(1959年)9月11日に校歌が制定されたことがわかり、1930年代の日本の急激な校歌制定の波に乗って作成されたことが想像できる。また、興味深かったのは、1907年頃から東京音楽学校(現在の東京芸術大学)が校歌の作成を委託されるようになっていくが、鳥取県と沖縄県のみ委託してないということ、そうするとどういうルートで作詞を土岐善麿氏(国文学者、歌人、文学博士)、作曲を平井康三郎氏(作曲家)にお願いしたのか。本校はもともと1756年に創立された「尚徳館」という藩校であるので、その関係からなのか。1851年に鳥取藩12代の藩主池田慶徳が「文武併進」の考えのもと、学館の拡張整備にとりかかったそうだが、校歌の歌詞に「文武併進」の精神があきらかに校歌に反映されているのは大変興味深いと感じた。また機会があれば、本校の校歌そのものを調べてみたいと思った。

4. 最後に

今年度はたくさんの新たな試みに私も不安でいっぱいだった。大切なことは、この初の全校合唱の発案こそ自分だが、その気持ちや意図を理解し、協力してくれる仲間(自分の場合場合、学校の先生方)がいてくれたからこそ実現できたということであり、根底にあるのは自分も含めた教員集団の教育への情熱と生徒への思いである。これは、きっと附属中学校の前身である「尚徳館」で生徒を育成した先人の方々とはるか長い歴史が流れていても同じであろうと思う。

歌は、自分の殻を破り、人と人との心をつなげる力がある。コロナ禍で人と人との関わりが分断され、思うようにコミュニケーションがとれなかった目の前の生徒達の心を、歌の力で再び強固に繋げたい。そして、音楽教育に携われることを誇りに思い、これからも1人でも多くの「音楽が楽しくて、好きで、生涯音楽を楽しみながら心豊かに生きる生徒の育成」を目指していきたい。校歌から読み取った、本校設立より教育に携わってきた歴代の先人の思いと教訓を胸にしっかり刻み、日々新たな取り組みにチャレンジしながら更なる音楽の魅力を伝えていきたい。

文献

- ・石村光資郎・石村友二郎(2014) 卒論・修論のためのアンケート調査と統計処理. 東京図書, 224 pp.
- ・文部科学省(2017) 中学校学習指導要領(平成29年告示), 教育芸術社, 165 pp.
- ・須田珠生(2020) 校歌の誕生, 人文書院, 220pp
- ・渡辺裕(2010) 歌う国民, 中央新書, 293pp